

果樹病虫害発生状況（4月中旬）

【リンゴ】

1 リンゴうどんこ病

花そう葉での発生は、確認されませんでした。

2 リンゴハダニ

越冬量調査（令和3年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は中通りで平年並、会津で平年よりやや高い状況でした（図1）。

越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

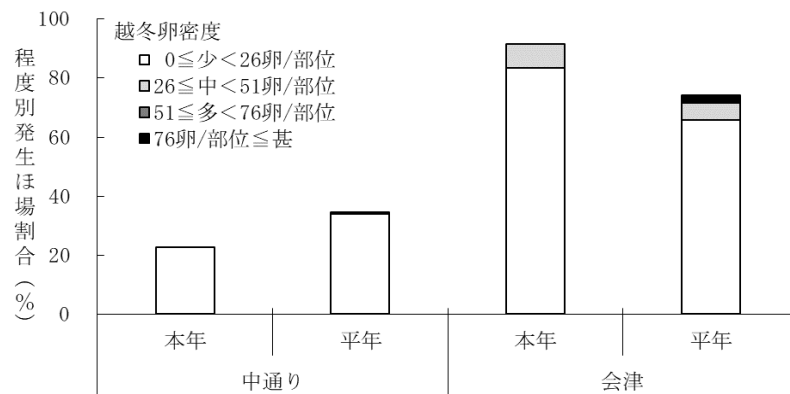


図1 リンゴハダニ（越冬卵）の発生状況（令和3年12月）

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。

【モモ】

1 モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。

春型枝病斑は見つけしだい、せん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう（令和4年4月20日付け防除情報参照）。

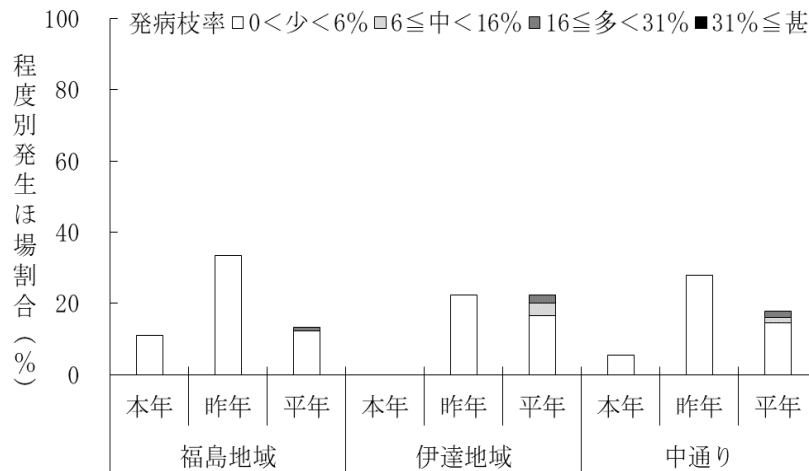


図2 モモせん孔細菌病（春型枝病斑）の発生状況（4月中旬）

2 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。

【ナシ】

1 ナシ黒星病

越冬量調査（令和4年1～2月）において、鱗片における越冬病斑の発生ほ場割合は平年並でした（図3）。

芽基部病斑は、鱗片が脱落せず付着したままの花そうを発見の目安とし、見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。

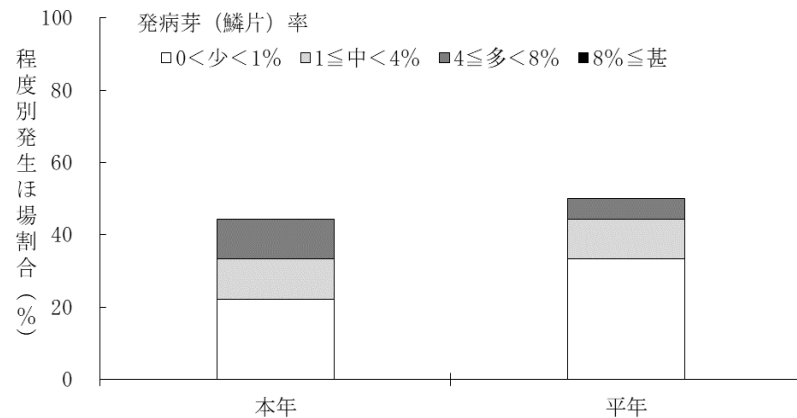


図3 ナシ黒星病（鱗片越冬病斑）の発生状況（令和4年1～2月）

2 ハダニ類

越冬量調査（令和3年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並でした。

越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。